

科目名	書道 I	単位数	2 単位	実施予定授業数	70 時間
-----	------	-----	------	---------	-------

☆学習の到達目標

<p>【知識・技能】 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p>	<p>【学びに向かう力・人間性等】 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書・副教材 等	「書道 I」(光村図書)	

☆学習計画および評価方法

<p>【知識・技能】 ○漢字の書・仮名の書について、書風と用筆・運筆の関係を理解し、古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけて表している。 ○漢字仮名交じりの書について、漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身に付け、目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につけて表している。 ○日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。</p>	<p>【思考・判断・表現】 ○漢字・仮名・漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ○日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○漢字・仮名・漢字仮名交じりの書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 ○日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。</p>
---	---	---

学期	学習内容	月	学習のねらい (評価基準)	時間数
1 学期	○オリエンテーション 書写から書道へ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の授業の進め方および学習方法、座席についての指導。教材費についての連絡、授業ノートの作成。 ・中学校で学習した書写の確認。 	23 時間
		5		
	○漢字の書 ・楷書の学習 (初唐の三大家)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書の基本 (歴史的背景、特徴、用筆) ・九成宮醴泉銘の鑑賞と臨書 (背勢の構えの理解) ・孔子廟堂碑の鑑賞と臨書 (向勢の構えの理解) ・雁塔聖教序の鑑賞と臨書 (藏鋒の理解) 代表的な楷書の筆者や時代背景について、基礎的な知識を身に付け、書風の違いを感じ取る。	
	<p>【知識・技能】 ○毎時間の提出作品 (70%) ○授業内容の理解 (30%)</p>			
	<p>【思考・判断・表現】 ○毎時間の提出作品 (70%) ○毎時間の授業ノートでの振り返り (30%)</p>			
<p>【主体的に学習に取り組む態度】 ○授業への主体的な参加と取り組み (70%) ○生徒による自己評価 (30%)</p>				
<p>【1 学期の評価方法】 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をそれぞれ数値化し、各観点を 40% : 30% : 30% の割合で総括し、10 段階評定とする。</p>				

学期	学習内容	月	学習のねらい（評価基準）	時間数
2 学 期	○漢字の書 ・行書の学習	7	・行書の基本（歴史的背景、特徴、用筆）	30 時間
		8	・蘭亭序の鑑賞と臨書（双鉤填墨の理解）	
	9	・風信帖の鑑賞と臨書（気脈の貫通の理解） 「蘭亭序」と筆者王羲之について、基礎的な知識を身に付け、 行書の主な特徴を理解する。		
	○篆刻の学習	10	・篆刻の基本（作業手順や用具用材の理解）	
		11	・姓名印の制作（字形と構成の工夫） ・印套、印譜の制作（押印の仕方の理解） 篆刻について、用具・用材など基礎的な知識を身に付け、 作業工程を理解し、姓名印を作成する。	
【知識・技能】○毎時間の提出作品（70%）○授業内容の理解（30%）				
【思考・判断・表現】○毎時間の提出作品（70%）○毎時間の授業ノートでの振り返り（30%）				
【主体的に学習に取り組む態度】○授業への主体的な参加と取り組み（70%）○生徒による自己評価（30%）				
【2学期の評価方法】「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をそれぞれ数値化し、 各観点を40%：30%：30%の割合で総括し、10段階評定とする。				

学期	学習内容	月	学習のねらい（評価基準）	時間数
3 学 期	○仮名の書	12	・仮名の基本（歴史的背景、特徴、用具用材、執筆法の理解）	17 時間
		1	・古典の鑑賞	
	・基本用筆			
	・いろは歌（いろは歌とひらがなの字母の理解）			
	・変体仮名（歴史的背景と成立についての理解）			
○漢字仮名交じりの書	2	・連綿（いろいろな連綿の理解）		
		・散らし書き（仮名独自の作品構成の理解）		
			・作品構成（オリジナリティーの追求）	
			・作品制作（百人一首からの創作） 仮名の基本的な知識を身に付け、用筆、運筆の技法や、平仮名 変体仮名の選択、連綿や配列などの特徴を捉え、多様な表現を 理解する。	
【知識・技能】○毎時間の提出作品（70%）○授業内容の理解（30%）				
【思考・判断・表現】○毎時間の提出作品（70%）○毎時間の授業ノートでの振り返り（30%）				
【主体的に学習に取り組む態度】○授業への主体的な参加と取り組み（70%）○生徒による自己評価（30%）				
【3学期の評価方法】「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をそれぞれ数値化し、 各観点を40%：30%：30%の割合で総括し、10段階評定とする。				
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をそれぞれ総括し、年間の10段階およ び5段階評定とする。				